平成 17 年 2 月 15 日

さい議会だより

No.128

村道福浦川目線整備工事現場視察（関連記事 12 ページ）

12 月定例会

貴重な資料保管すべき　3 ページ

公約実現に大きな期待　4 ページ

郷土芸能上演に大喝采　10 ページ

・発行 佐井村議会 ・編集 議会広報編集委員会 ・〒039-4711 青森県下北郡佐井村大字佐井字糠森 20 TEL0175-38-2111 FAX0175-38-2492

12月
定例会

強風被害にかかる修繕費など可決

平成十六年十二月定例会は、十二月十日から十五日までの六日間の会期で開かれました。

今定例会には、一般会計補正予算など十二件の議案が提出され、それぞれ原案のとおり可決、承認されました。

当村はこれまでも自然、地理的な悪条件を克服し、産業の振興をはじめ道路整備、防災施設、教育・文化施設、医療施設などの生活環境施設を順次整備してきているものの、まだ途上にあり、地域の自立促進を図るための基本的な方向として「佐井村過疎地域自立促進計画」も議案として提出され、可決されました。

一般会計補正予算など4件の補正予算は、予算・条例等審査特別委員会に付託され、十二月十四日に総括審査が行われ、それぞれ異議なく可決されました。

一般会計補正予算では、平成十六年十一月二十七日に発生した強風被害にかかる災害復旧費として、長後小中学校、原田小学校修繕費、第八分団（牛滝）屯所修繕費、議員、特別職の期末手当、一般職員の期末・勤勉手当、課長等の管理職手当の減額補正なども可決されました。

壁が剥ぎ取られた長後小中学校体育館

サッシごと吹き飛ばされた原田小学校体育館

修理が必要となった第８分団屯所

貴重な資料保管すべき

平成１８年度に統合される長後小中学校

島野委員

学校統合問題も、関係者の努力により、いよいよ原田小学校、磯谷小学校、長後小学校が佐井小学校へ、磯谷中学校、長後中学校が佐井中学校へ、平成十八年三月三十一日をもって統合される。

歴史、伝統を持つそれぞれの学校には、貴重な資料が保管されている。

例えば、校歌板や校訓板などの保存は考えているか。

学校側と協議している

教育委員会総務課長

地域から寄付を受けている校歌板などの保存については学校側と協議しているが、今の段階では決まっていない。

資料保管を検討すべき

島野委員

これまで川目、矢越分校の統合、廃止があったが、当時の資料が全然保管されていない。

そのことを教訓に、是非保管については検討していただきたい。

きちんと保管し次世代へ

村長

歴史ある五十年の節目の学校統合である。

卒業生には思い出が沢山あると思うので、大事な資料などはきちんと保管し、次世代に渡したいと思う。

追跡質問

青銀ＡＴＭ再設置できるか

工藤議員

青森銀行ＡＴＭの再設置の要望に対し、再設置するとの回答を得たと報告されたが、未だ設置されていない。

本当に再設置はできるのか。

一月中にはアルサス内に設置

村長

青森銀行から、ＡＴＭの設置は、アルサス内に設置を前提に、今後、速やかに手続きに移りたいとの回答を得ている。

現在、設置に向けた準備をしていると思われる。

十二月中か、一月中には設置できるものと思っている。

待望の青森銀行ＡＴＭがアルサスに設置された

公約実現に大きな期待

村長一期目の行政運営どう総括？

島野議員

太田村長も就任から既に三年七ヶ月を経過しようとしている。

選挙を通して、数多くの公約を村民に約束し、特にその公約の最も重要な六項目を、村長就任時の臨時議会で説明している。

まず、開かれた行政運営について、庁内外の村民参加による検討委員の設置、更には事業実施後の行政評価を、どのように行ってきたのか。

わがまちづくり検討委員会

合併懇話会など組織した

村長

住民参加の行政は、地方分権時代の常識である。

市町村合併の対応として、合併した場合の効果や課題、将来構想を検討するため「市町村合併懇話会」の設置、地域で抱えている課題や、将来あるべき姿について話し合う「わがまちづくり委員会」を設置した。

予定価格公表で落札価格安く

助役

行政評価は、今まで入札制度は思考錯誤しながら改正してきた。

現段階では、ある事業費を超えた場合、予定価格の公表を行ったことで落札金額が安くできた。

それにより生まれた財源が、別の事業に充当でき、良い評価ができたと考えている。

水産振興どう取り組んだ？

島野議員

水産振興の資源管理型漁業の推進は、具体的にどのように取り組んだのか。

また、高齢漁業者の対策として、蓄養殖漁場造成に、県の対応はどうであったのか。

並型・大型漁礁など設置

村長

資源管理型漁業の推進は、並型・大型漁礁の設置、広域型増殖場を造成し、魚類の定着を図ったほか、ウニ駆除や磯焼対策、漁民の森づくりを実施した。

高齢漁業者対策として、佐井～磯谷間の道路改良によって生ずる岩石などを前浜に投石し、ノリ、フノリの養殖を実施するため、県に要望している。

島野議員

蓄養殖漁場県に要請

助役

原田地区の蓄養殖漁場造成は、原田漁港の西防波堤沖合いの界わいに消波施設、護岸堤を設置するよう県に要請している。

投石でノリなどの養殖事業を：願掛付近

赤十字資料館どうなった？

島野議員

赤十字の里づくりの推進に当たり、資料館兼研修施設の整備を、関係機関に働きかけると言っているが。

三法交付金で計画している

村長

赤十字資料館は、県、日本赤十字社青森県支部、県選出国会議員の方々に陳情したが、該当する補助がないとの回答を得た。

三上家から剛太郎先生の生家、土地の寄贈があり、登記手続をしている。

電源三法交付金で「三上剛太郎生家保存事業」を計画している。

三上剛太郎生家として保存し、広く内外へ公開して赤十字精神の学習の場として供したい。

佐井バイパス 代替案見通しは

島野議員
佐井バイパスの早期実現の公約は、国、県の財政悪化により、着工までに相当時間を要すると考える。
代替案として、佐井臨港道路の延長を検討すると言っているが、見通しはどうか。

道路概略設計 進めているようだ

村長
佐井臨港道路の延長計画は、現在、ルート選定を行うため、道路概略設計を進めていると伺っている。

延長が待たれる佐井臨港道路

経済活性化に 努力すべき

島野議員
当村の建設業で働く方々の窮地に置かれている生活の状態を考えた場合、是非とも臨港道路の整備を促進し、村の経済の活性化に努めるべきである。

同感である

村長
全く同感である。
県の部長、課長から説明を受けた際、核燃サイクル事業の配分金で整備すると説明を受けた。
早期に着工するよう、強く陳情する。

干場利用者の 対策どうする

島野議員
調査の段階のようだが、起点～終点、民有地として何名の方々が関わるのか。
また、県有地を干場として利用しているが、道路となった場合の対策を検討しているか。

議論していない

環境建設課長
まだ図面上に、ルートを入れている段階である。
干場を今後どうするのか、現在のところ議論していない。
地権者は、約二十名程度である。

人材育成・奨学資金 充実図れたか

島野議員
人材育成と奨学資金制度の充実について、どのような対策を講じたか。

財政厳しく 運用を見直し

村長
国際化に対応する人材育成ということで、平成十三年、十四年にわたり中学生を「青少年国際交流タイ訪問の翼」へ派遣した。
奨学資金制度は、奨学生を持つ家庭の経済的負担を側面から支援するため、貸与額の引き上げを行ったが、今日の厳しい財政状況を踏まえ、運用面の見直しを行った。

仏ヶ浦展望駐車帯

陸域観光の 施設整備は？

島野議員
観光産業の振興について、陸からのマイカー、バスなどの対策として、施設整備を考えていると説明しているが。

仏ヶ浦展望台 など整備した

村長
狭隘な道路の解消と、佐井村の玄関口として臨港道路の整備、仏ヶ浦展望駐車帯の整備を行った。

行政運営 どう総括？

島野議員
太田村長、一期目の行政運営を、どのように総括しているか。

住民の皆さん 評価すべきもの

村長
就任当時から、村の財政の厳しさを把握していたが、考えていた以上に厳しい状況であった。
公約はいろいろしたものの、出来なかった部分もあり、評価は住民の皆さんがするものと考える。

大間原子力発電所完成時 安全協定に同意か

大間原子力発電所準備工事

山口議員　大間原発の運転開始に当たり、法律の定めでは事業者の電源開発㈱と立地町の大間町と青森県との間で安全協定の締結が義務付けられている。

青森県では隣接町村の自治体にも、協定の締結を指導しているか。

協定指導している

村　長　安全協定の締結は、法律上の根拠はないが、慣例では青森県の指導により、事業者、立地町、県の協定である。

隣接村である佐井村、風間浦村を含めて安全協定を結ぶことになる。

締結の申し入れ どうする？

山口議員　大間町長から安全協定締結の申し入れがあった場合、現時点での考えを伺いたい。

今は触れる時期でない

村　長　現時点では、安全協定の締結について触れる時期ではないと考えている。

駐車場の整備必要

山口議員

山口議員　仏ヶ浦を訪れる観光客は、海が時化の場合、願掛まで足を伸ばし、願掛岩をバックに記念撮影をしている。

観光バスは、願掛橋背後の駐車場は出入りができず、磯谷方面まで行ってUターンしており、観光バスの運転手から苦情が出ている。

駐車場の整備が望まれるスイミングハウス付近

願掛橋背後を埋め立てし、駐車場を整備する考えはないか。

現段階では対応しかねる

村　長　必要性は十分理解しているが、相当の財政負担が伴うので、現段階では対応しかねる。

最新版ビデオで観光宣伝を

山口議員　村政百周年の記念事業で、観光・物産などをPRするためビデオを製作し、アルサス内のPR広場で観光客に紹介している。

既に十五年も経過しており、内容が古くなっているので、最新版を作成し、広く観光宣伝する考えはないか。

ビデオ製作に努力する

村　長　当村を広くPRするためのビデオ製作は考えている。

有利な助成制度を活用し、実現に努力する。

川畑議員

赤十字の里づくり どう取り組むか

川畑議員

三上剛太郎翁の博愛、仁愛の精神を後世に語り継ぐため、これまで本やビデオ製作など事業が実施されてきた。

現状の厳しい財政の中、今後予定されている赤十字の里づくり事業に、どのような政治的判断と熱意をもって取り組むのか。

佐井村職員互助会会員と議会議員合同での募金活動

住民と活動展開したい

村長

赤十字の里づくりを提唱した平成八年度当初の原点に立ち返り、赤十字の里づくり推進本部体制を再確認し、

①住みよい村づくり実践部会では、地域の安全と環境美化関係。

②いきいきとした村づくり実践部会では、健康増進と奉仕活動関係。

③文化の薫る村づくり実践部会では、文化活動と生涯にわたる学習活動の推進。

この三つの実践部会の活動方向、活動体制を再検討し、より着実な実践活動を各種団体、住民とともに展開したい。

作文コンクールの考えないか

川畑議員

赤十字の里づくり事業は、三上翁の功績を後世に残すとともに、博愛、仁愛に満ちた人づくりを目指す事業である。

人づくりを結びつけた事業として、全国の小学生、中学生を対象に、赤十字に関する作文コンクール大会を開催したらどうか。

日赤青森県支部に相談した

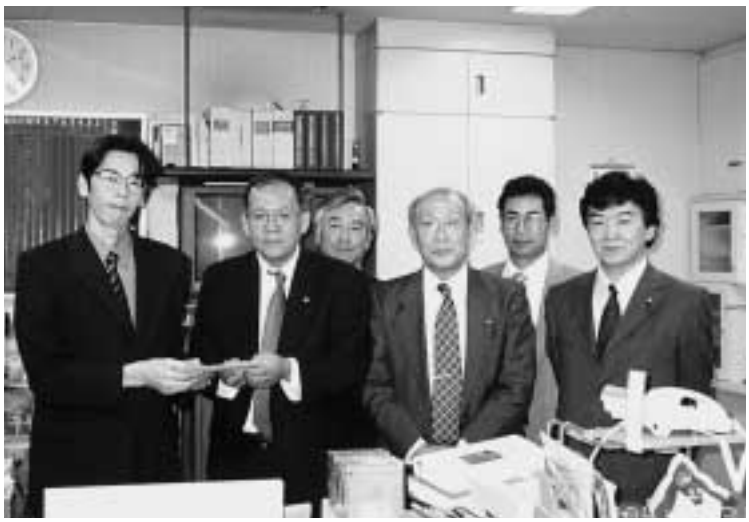
村長

赤十字に関する作文コンクール大会について、日赤青森県支部事務局長に相談したところ、企画運営に関するアイディアの一つとして、日赤本部と詰めたいと話があった。

義援金マニュアル策定すべき

川畑議員

災害発生時、佐井村独自の判断で活動するためにも、義援金対象のマニュアルを策定することで、スムーズな対応、活動ができると思う。



新潟中越地震災害義援金を日赤青森支部へ

マニュアル策定研究する

村長

災害が発生した場合、募金活動は日赤青森県支部を通して要請があるので、ケースバイケースで対応する。

マニュアルの策定は、他町村の動向なども踏まえ研究する。

村単独財政シミュレーション示せ

財政健全化対策本部会議

千葉議員　村単独行政の財政シミュレーションを示していただきたい。

平成二十年度 財政再建団体へ

村　長　平成十六年度八月に作成した財政運営計画をベースに、財政健全化対策本部で検討した財政シミュレーションでは、平成二十年度で標準財政規模の二十％の財政再建団体ラインの三億円を上回ることになる。

財政再建団体に、転落しないための財政運営対策として、建設事業の見直しを検討する。

公債費や人件費 どう考える

千葉議員　公債費、扶助費、人件費の対策を、どのように考えているか。

千葉議員

報酬・給料 削減する

村　長　公債費は、平成十七年度に元利償還金が四億円前半まで減少する。

扶助費は、法律に基づく制度的なものが大半で、村単独の扶助費は、削減または廃止の方向で検討する。

人件費は、議員報酬、特別職、一般職員の給料も削減する考えである。

人件費削減 決意の表れか

千葉議員　村長の給料など佐井村特別職報酬審議会に諮問し、その答申では、特別職などの給料が引き下げられると聞いている。

人件費削減に踏み込んだ、村長の強い決意の表れか。

厳しい財政 乗りきるため

村　長　厳しい財政を乗りきるため、人件費を削減すべきと判断した。

国保税 納付回数 変更せよ

千葉議員　不景気、不漁などによる収入減から、住民の納税負担は予想以上に大きい。

国保税納付回数を、現状の四回から十回か十二回に変更できないか。

回数変更 必要ない

村　長　納税組合長の意見を伺ったところ、今でも分割納付を行っているので、改める必要はないとの総意である。

また、北通り三ヶ町村の場合も、全て四期となっている。

今後とも分割納付の相談に応じる。

仏ヶ浦管理協力金
早期に条例制定すべき

千葉議員
下北半島国定公園「仏ヶ浦」管理協力金徴収のアンケートを実施したと聞いている。
その結果を勘案し、早期に条例制定をして徴収のスタートをきるべきである。

景勝地：仏ヶ浦

条例制定 慎重に判断したい

村長
アンケートを実施し、約二百名の方から回答を得た。
その結果、
◎管理協力金の負担は当然である＝四十二％
◎やむを得ない＝四十一・八％
◎そう思わない＝十五・三％
と、管理協力金徴収には理解を得たものと考える。
しかし、土地所有者である林野庁の同意をはじめ、地元観光業者の意見も尊重し、条例制定には慎重に判断したい。

協力金徴収で 雇用の創出も

千葉議員
管理協力金を徴収し、仏ヶ浦の環境を整備することにより、雇用の創出も図られる。

林野庁では 理解示さず

村長
林野庁では、借入地から管理協力金を徴収することに理解を示していない。

教育対策指導 どう進めた？

千葉議員
佐井中学校から大間高校に入学できないケースが発生している。
管内中学校の県内、郡内における学力水準はどの程度か。
また、大間高校へは、最低、地元の入学希望者は全員入学させるスタンスが必要と考える。
その対策として、小学校、中学校の教育対策指導は、どのようにしてきたか。

検査結果分析し 指導改善している

教育長
佐井村の教育水準は、県において高校受験者の学力検査の結果による分析、結果が公表されていないため、答えることはできない。
大間高校へ全員入学させるスタンスは必要だが、大間高校に限らず受験者が希望した学校に合格できるよう、各学校において学力向上の指導に努力している。
具体的には、佐井村学校教育推進委員会の学習指導部会で実施する「標準学力検査」の結果を各学校で分析し、教科の課題の把握に努め、指導の改善に役立てている。

今後の教育行政 どうする？

千葉議員
今後、村内の教育行政はどうするのか。

基礎学力向上と 道徳性の育成を

村長
一人一人の子供が学習に主体的に取り組み、基礎学力が身に付くよう適切な指導と、命の尊さや相手を思いやる気持ちが生活の中で生かせるような道徳性の育成に努める。

郷土芸能上演に大喝采

レポート：千葉悦治議員

矢越歌舞伎の演目「白波５人男」を村議有志が披露

去る十一月二十七日、東京上野「東天紅」において、佐井同郷会が開催され、同会の郷土芸能の上演希望に応えるべく、村長以下二十四名が出席した。

当日は、長年、佐井同郷会役員として、当村とのパイプ役として尽力された方々に表彰を行い、その後、上山等会長、佐井村長の挨拶の後、太田良三理事の乾杯で宴会が始まった。

まず、磯谷敬神会による御神楽の上演、その後、議会議員による歌舞伎「白波五人男 稲瀬川勢揃いの場」を上演、引き続き、磯谷敬神会による「きつね踊り」が上演され、出席者の景気と鮭漁をきつねに占ってもらったところ、大々漁との結果に、会場から大爆笑が起こった。

毎年恒例の佐井漁協の水産加工品の即売は、今年も故郷の味覚を求める方々で、ほぼ完売となった。

今年で最後になる可能性のある「佐井同郷会」に、議員で何か出し物をということで矢越歌舞伎での演目「白波五人男」が決定した。

川畑議員が、議員の個性に合わせた見事な配役を発表した。

弁天小僧＝竹内議員
日本駄右衛門＝宮川議員
忠信利平＝工藤議員
赤星十三郎＝山口議員
南郷力丸＝千葉議員
口上＝中村局長

佐井同郷会に向け、練習を開始したのは、十月中旬であった。

矢越地区生活改善センターに夜七時集合し、九時までの二時間、約一ヶ月後の上演を目指し、矢越芸能保存会のメンバーの厳しい指導のもと、練習がスタートした。

何とか長い台詞を覚え、十一月十日、アルサスしおさいホールで行われた南茅部町との交流会での上演は大好評で、自信になった。

練習も頻度を増し、仕上げに入っている。矢越芸能保存会のメンバーにも緊張が増している。

地元の先輩が再三訪れ、太鼓、化粧、口上の指導をするのである。

私たちも、これだけの指導をしていただいて、変な舞台はできないと感じ、練習に励んだ。

十一月二十七日、佐井同郷会には約百名ほどの参加者のもと、無事上演することができた。

大喝采を浴び、良い思い出になった。

矢越芸能保存会の皆様、ありがとうございました。

磯谷敬神会による「きつね踊り」

自然エネルギーで利用促進図る

レポート：山口建夫議員

去る十一月二十六日から三十日までの日程で、自然エネルギーの有効活用並びに電源の多様化の実態を調査し、議会活動の向上に資するため、東京都「東京臨海風力発電所」と沖縄県「石川石炭火力発電所」を視察研修した。

東京臨海発電所

東京臨海風力発電所は、東京都が地球温暖化防止対策の一環として、臨海部に風力発電施設を設置し、都民や事業者の視覚に訴え、また、風力発電に関する様々な情報を提供することにより、自然エネルギーの利用促進を図ることを目的として実施する先例的事業であり、電源開発㈱・富田通商グループが、実施事業者として公募選定された。

◎東京臨海風力発電所の概要

・所在地＝東京湾中央防波堤内側埋立地
・事業期間＝二〇〇三年三月から二十年間
・発電所出力＝１７００ＫＷ（８５０ＫＷ×２基）
・年平均風速＝約５．４Ｍ／Ｓ
・年間発生電力量＝約２５０ＫＷｈ
（一般家庭約八百世帯分の年間消費電力量に相当）
・総事業費＝約３．３億円
・受電会社＝東京電力㈱に全量売電

東京臨海風力発電所

石川火力発電所

石川石炭火力発電所は、一〇〇％石油に依存していた沖縄の電力供給における脱石油化、電源の多様化を図るため、電源開発㈱が建設した沖縄県ではじめての石炭火力発電所である。昭和五十九年二月に土木工事に着工し、六十一年十一月に一号機が、六十二年三月に二号機が営業運転を開始した。

環境対策として、石炭を燃焼させることにより発生する、排ガス中の硫黄酸化物、窒素酸化物、ばい塵については、電気集塵器によるばい塵除去、排煙脱硫装置による硫黄酸化物発生の低減などを採用。沖縄県並びに石川市と環境保全協定を締結し、環境の保全に万全を期している。

◎東京臨海風力発電所の概要

・所在地＝沖縄県石川市赤碕
・発電所出力＝３１万２千ＫＷ（１５万６千ＫＷ×２ユニット）
・燃料＝主燃料石炭（海外炭）
・燃料貯炭場＝屋内式（サイロ型）３．１万ｔ／基×４基
・総事業費＝約１千億円
・電力供給先＝沖縄電力㈱

石川石炭火力発電所

仮称佐井浄化センター整備事業・村道福浦川目線整備事業

計画どおり事業実施なるか懸念

レポート：坂井文明議員

仮称：佐井浄化センター現場視察

十二月十日、午後一時半より、建設中の佐井浄化センター（仮称）及び村道福浦川目線の現場視察を行った。

佐井浄化センター（仮称）は、県の代行工事で実施している。

現在まで分配槽上屋、オキシデーションデッチ池最終沈殿地、ポンプ室、塩素接触タンク上屋の整備が完了した。

十七年度以降は管理汚泥棟の建設と、これを含めた各施設の機械、電気設備等の整備がなされる。

この施設は、主要な部分は県代行事業で整備するが、村で整備しなければならない施設もある。

計画処理人口では、オキシデーションデッチ池は二基必要となるが、県代行では一基のみの整備であり、残りの一基は村で整備しなければならない。

また、フェンスの設置も、村で行うことになる。

村での事業費は2億5千万円を予定しているが、計画処理人口の見直しも予想されることから、事業費が圧縮される可能性もある。

矢越、大佐井の供用開始は平成十九年四月を予定、古佐井、原田、川目地区については、平成二十四年度までに整備を完了する予定で、年度ごとの整備が終われば、順次、供用開始できる。

現在は、公共下水道事業として村の中心地である大佐井地区、そして矢越地区の整備が進み、順次、古佐井、原田、川目地区の整備がなされる。

村道福浦川目線（福浦地区から縫道石山登山口を経由し野平まで）の整備については、総延長十・二kmで、既に整備された整備済区間は五・六kmで、福浦地区から縫道石山登山口までである。

現在、工事されている整備区間は二・二kmで、総事業費9億2千万円、今年度までの進捗率は五十六％である。

完了年度は平成十九年を予定している。

それ以降の未整備区間の二・四kmについては、事業主体が定まっておらず、選択肢としては一、村単独で整備する。二、県代行を選択してもらう。三、県道昇格の3つが考えられる。

それぞれのメリット、デメリットを勘案し、村の財政状況を見極め、適切な方向性を見出さなければならない。

両事業とも当村にとって念願の事業であり、今後五年間の過疎計画にも優先的に盛り込まれている。

しかし、財政状況によっては過疎計画の各事業の見直し、圧縮、ローリングなども予想されることから、計画どおり事業の実施がなされるか懸念される。

村道福浦川目線整備工事現場視察